特集/次世代の医学教育者の育成に向けて

医学・医療教育学の専門家養成に関するニーズ調査結果

鈴木　康之[*1]　吉岡　俊正[*2]　吉田　素文[*3]
田川　まさみ[*4]　錦織　宏[*5]　西城　卓也[*6]
守屋　利佳[*7]　大谷　尚[*8]　渡邊　洋子[*9]

要旨：

1）日本医学教育学会マスターコース検討委員会は医学・医療教育専門家の教育に関するニーズ調査を実施した.

2）医学・医療教育機関のリーダー，日本医学教育学会会員など1831名にアンケートを発送し，644名から回答を得た（回収率35.2%）．回答者の過半数は医学教育専門家が必要であると認識しており，求めるレベルとしては認定資格が最も多かったが，修士・博士等のニーズも存在した.

3）これらの結果は日本においても医学・医療教育学の専門家を育成するシステムの構築を進める必要性を支持するものである.

キーワード：医学教育学，大学院教育，修士課程，認定制度，ニーズ調査

Questionnaire survey on the development of education system for medical educationist in Japan

Yasuyuki Suzuki[*1]　Toshimasa Yoshioka[*2]　Motofumi Yoshida[*3]
Masami Tagawa[*4]　Hiroshi Nishigori[*5]　Takuya Saiki[*6]
Rika Moriya[*7]　Hisashi Otani[*8]　Yoko Watanabe[*9]

Abstract

1）The committee for the graduate education of medical educationists, Japan Society for Medical Education, investigated needs for the education system of medical educationists.

2）A questionnaire was sent to 1831 leaders in healthcare education and the society members, and 644 replied（recovery rate 35.2 %）. Fifty % of the respondents agreed the necessity of medical educationists. Certificate level was most popular, however, master and PhD degrees were also considered to be necessary.

3）These results support the establishment of educational system for medical educationists in Japan.

Key words: Medical Education, Graduate School, Master program, Certificate, Needs, Seeds, Questionnaire survey

[*1] 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター，Medical Education Development Center, Gifu University School of Medicine［〒501-1194 岐阜市柳戸1-1］

[*2] 東京女子医科大学医学部医学教育学，Department of Medical Education, Tokyo Women's Medical University, School of Medicine

[*3] 九州大学大学院医学研究院医学教育学部門医学教育学講座，Department of Medical Education, Faculty of Medical Sciences, Kyushu University

[*4] 鹿児島大学大学院医歯学教育開発センター，Center for Innovation in Medical and Dental Education, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University

[*5] 東京大学医学教育国際協力研究センター，International Research Center for Medical Education, the University of Tokyo

[*6] 名古屋大学医学部附属病院総合診療部，Department of General Medicine, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan

[*7] 北里大学医学部医学教育研究開発センター，Department of Medical Education, Research and Development Center for Medical Education, Kitasato University School of Medicine

[*8] 名古屋大学大学院教育発達科学研究科学校情報環境学講座，Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University

[*9] 京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座，Lifelong Education and Libraries, Graduate School of Education, Kyoto University

はじめに

日本医学教育学会では平成19年（第15期）にマスターコース検討委員会を設置し，医学・医療教育専門家の育成体制を検討した．本稿では医学・医療教育機関の指導者と日本医学教育学会会員を対象としたニーズ調査の結果を報告する．

対象と方法

委員会で作成したアンケート用紙を全国の医学・医療教育機関の指導者（医学，歯学，薬学，看護，理学療法，教育学，臨床研修病院，各種医学会），日本医学教育学会会員，研修医など1,831名に発送した．回答は無記名とし，回答者個人の考えを記入してもらった．

結果と考察

1．回答者の背景（**表1**）

644名から回答を得た（回収率35.2%）．50歳代で20年以上の教育経験を有する教育機関の博士号を持つ教員（医師）が多数を占めたが，コ・メディカルの教員や40歳未満の若年層からも一定数の回答を得ることができた．臨床研修病院からの回答率が低かった．

2．専門家に期待する能力（**図1**）

「学生・医療者・教職員に対する指導能力」「教育・学習プログラムの企画・立案能力」「評価法に精通」を期待する回答が多かった．一方，「研究能力」「エビデンスに精通」「社会活動」などは期待度がやや低かった．自由記載では人間性，熱意，リーダーシップ，利他の精神など，人物そのものに関する期待が目立った．

3．専門家に解決・改善を期待する課題（**図2**）

臨床実習，初期臨床研修，プロフェッショナリズム・コミュニケーション・問題基盤型教育の改善に高い期待が集まった．共用試験・国家試験，専門医・研究者育成，生涯学習に関してはそれほど強い期待ではなかった．自由記載としては，学生のモチベーション向上，e-learning，多職種共同教育（医療と福祉の連携），省察を重視した教育，地域社会貢献，教材開発などが指摘された．

表1　回答者の背景

背景		回答者数
年　代	～39歳	105
	40～49歳	113
	50～59歳	304
	60歳～	118
所　属（複数選択）	医学部基礎社会医学系	51
	医学部臨床医学系	175
	医学教育系	59
	歯学系	20
	薬学系	35
	看護系	68
	リハビリ/作業療法系	44
	臨床研修指定病院	158
	一般病院/診療所	44
	その他	45
職　種	教員	404
	医療職	241
	その他	20
資　格	医師	472
	その他	160
学　位	博士	467
	その他	132

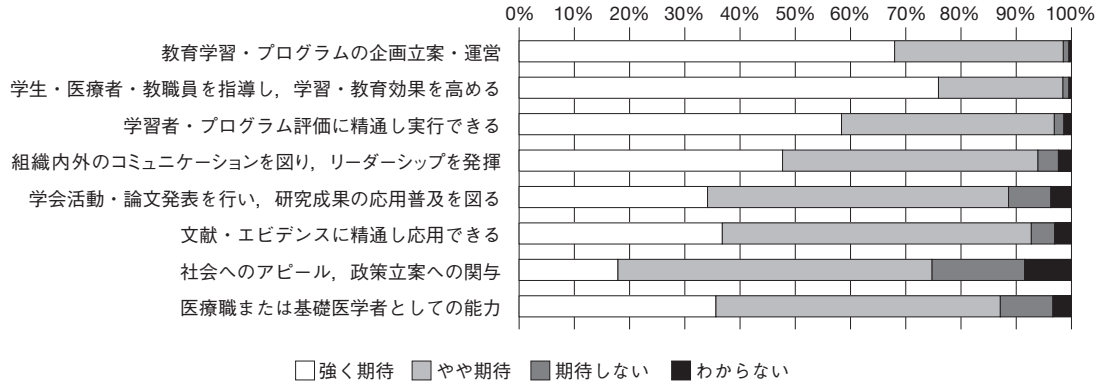

図1　医学・医療教育学の専門家に期待する能力

4. 専門家に求める資格レベル（**図 3-1，3-2**）

認定資格：実務能力の修得（認定医・専門医のようなイメージ）
修士：実務能力＋理論の修得を中心とした2年間の大学院教育
博士：実務能力＋理論＋研究能力の修得をめざした4年間の大学院教育

上記区分で質問したところ，認定資格のニーズが高く，次いで博士，修士となった．幅広い教員・指導者の教育実務能力やスキル向上を期待する考えがうかがわれ，修士や博士についてはイメージが捉えにくかったと推察される．修士は医学部出身者にとって馴染みがない点も影響したと考えられる．修士課程の必要性を回答者の背景別に分析したところ（**図 3-2**），コ・メディカルの教員や施設長は比較的ニーズが高く，博士課程も同様の傾向であった．

5. 資格取得に対するニーズ（**図 4**）

約半数が周囲の人に資格を取らせたいと考えており，約6割は認定レベル，約4割は修士・博士等を望んでいた．回答者自身が資格を取りたいとしたのは4割弱であり，指導者として部下に資格を取らせて教育の向上を図りたいという意識の表れと推測された．

6. 自由意見（**表 2**）

その他の自由意見を**表 2** に示す．多種多様なご意見や提案をいただいたことに心から感謝したい．医学・医療教育専門家の概念が不明確で，疑念や誤解を招いた部分もあり，今回のアンケート調査結果に基づき，委員会として明確な専門家像を描かなければならない．また広い社会的視野で解決すべき問題が多数存在することもご指摘いただいた．これらは医学教育学会へフィードバックし，学会全体の活動に反映させたい．

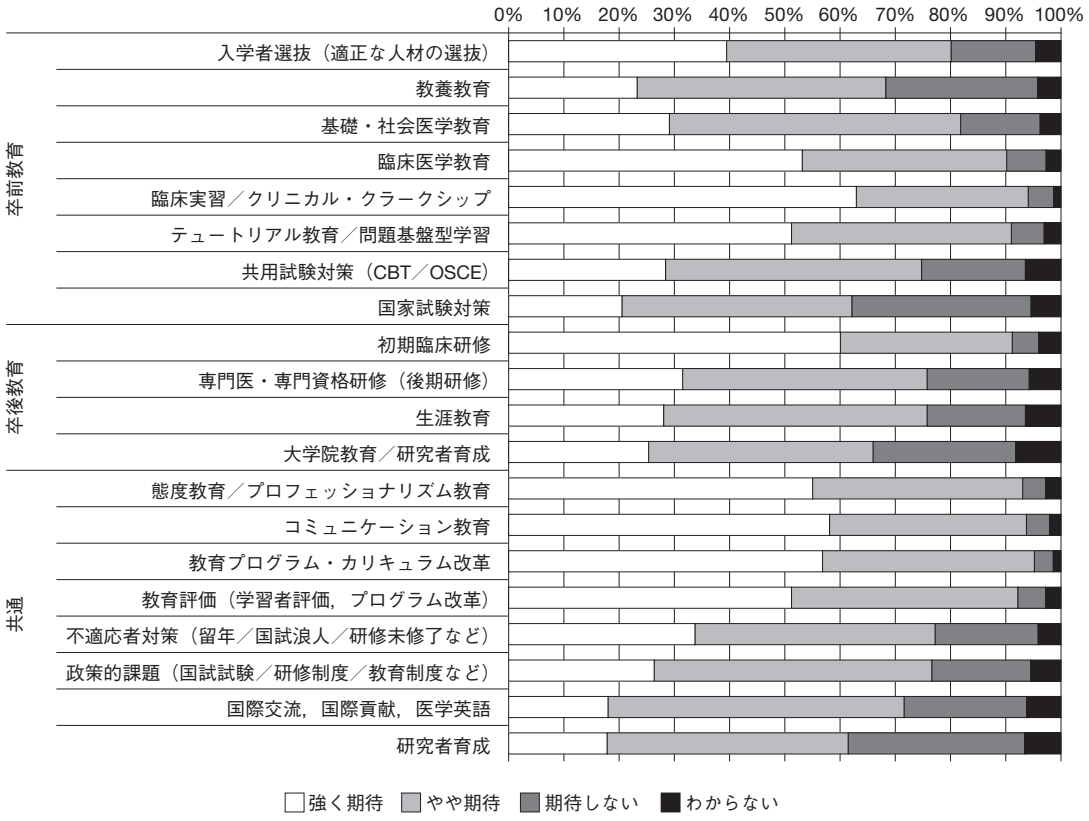

図 2　医学・医療教育学の専門家に解決・改善を期待する課題

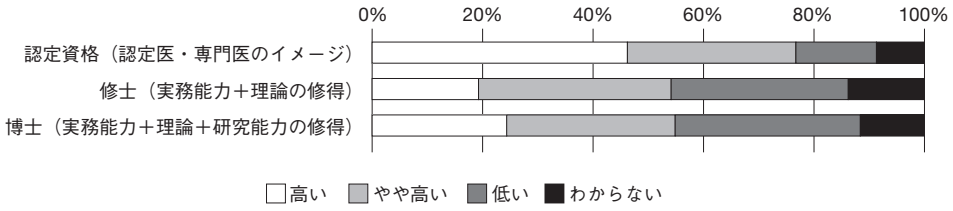

図 3-1　専門家に求める資格レベル

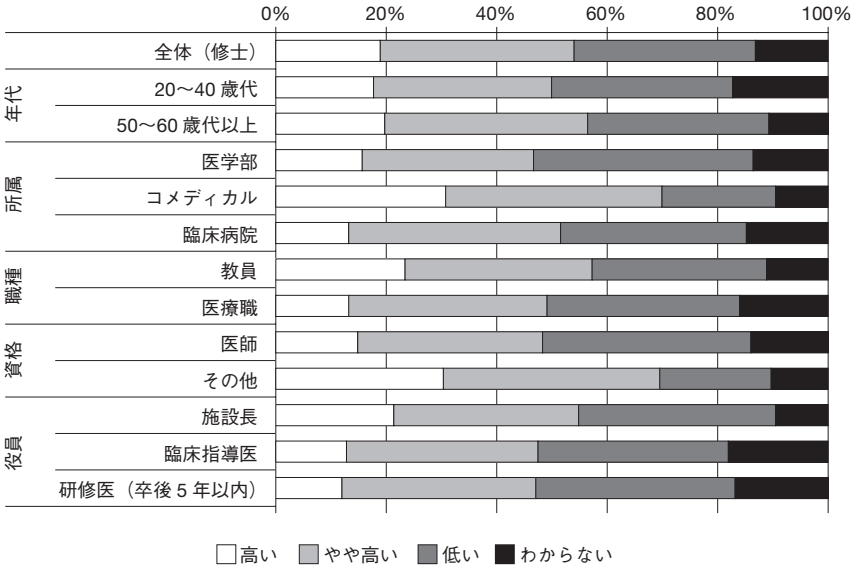

図 3-2　修士課程に対するニーズ（回答者背景別）

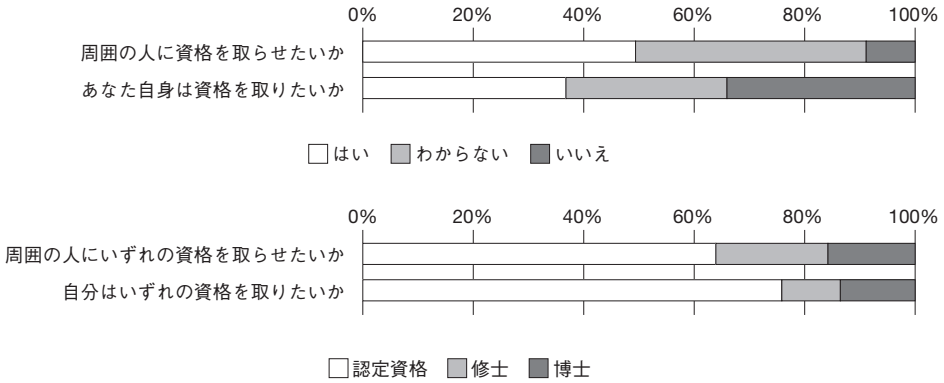

図 4　資格取得に対するニーズ

表 2　主な自由意見

＜20 歳代＞ ・医学医療教育の専門家はなじみがなかったが，今後の医療を担う人材育成を行う上で重要だと認識した． ・ロールモデルとなる指導医になってほしい． ・大学病院では医学教育は重要であり，自分も周囲にもこの資格を取らせたい． ・諸外国の教育制度・実態を参考に，日本オリジナルなものを構築してほしい． ・待遇面を良くしない限り，良い人材が集まらない． ・日々の診療に忙しい指導医にとって負担が増えて，実際に制度がうまく働くのか疑問． ＜30 歳代＞ ・学生・研修医を直接指導するより，指導者の教育やプログラム全体の統括が重要． ・医学教育が学問として認知されていない．イニシアティブを取って全国の医学教育レベルを牽引してほしい． ・リソースの集約が必要．多くの人が興味を持つような魅力的なプログラムを作ってほしい． ・PhD でなければ影響力を持つ事が難しい． ＜40 歳代＞ ・医学教育の国際標準化に遅れない為に，制度が必要． ・臨床経験や教育能力を持ちながら，諸事情で能力を発揮できない人が，資格を持って活動出来ればと願う． ・研修医を指導するために，教育理論の勉強が必要． ・資格に見合う権限と待遇整備が必要． ・医学教育を専門としたい希望が少しずつ増えている．10 年くらい臨床を経験した者が良いのではないか．	・教育専門家は臨床現場と離れてはならない． ＜50 歳代＞ ・勤務を継続しながら資格を得ることが出来る制度を． ・資格が一人歩きする事を危惧する．理屈が優先するようでは現場への説得力に乏しい． ・病院勤務医の負担は診療だけでも大きい．現在の医療環境下で制度が動くか疑問． ・周囲のバックアップが不可欠．専門職と言われる人のみに教育を押し付けてはいけない． ・教育に軸足を置いて，頑張っている臨床医学教育者の評価を高め，教育の連鎖を育んでいく事が大切． ・教員の殆どは，教育学の専門教育を受けていない．医学・医療教育学の専門家のニーズは非常に高い． ・全国に 1 つで良いから専門家養成コースを開設すべき．認定資格制度も併存させる． ・教育に意義を感じる女性医師などの掘り起しができる． ・全ての専門資格に共通するが，インセンティブと結びつかないことが大きな問題． ＜60 歳代以上＞ ・医療職全体を視野に入れた教育プログラムの開発． ・専門家を養成する事は，保健医療福祉系にとっても大変効果が大きい． ・教育に関して長期の研修を希望する医師があるか？その人を研修に出すだけの医師の人的余裕があるか？研修中の身分保障（収入の確保）は出来るか？ ・現在の資格制度は，資格を取っても給与にはほとんど反映されていない．

結　論

日本医学教育学会マスターコース検討委員会が実施した医学・医療教育専門家の育成に関するニーズ調査において，回答者の過半数は医学教育専門家の必要性を認め，認定資格，修士課程，博士課程それぞれにニーズが存在することが明らかになった．これらの結果は医学・医療教育学の専門家育成システムの構築を支持するものである．

文　献

鈴木康之，吉岡俊正，吉田素文，田川まさみ，錦織　宏，西城卓也，守屋利佳，大谷　尚，渡邊洋子，奥山訓子．医学教育学マスターコースの設立に向けて．新しい医学教育の流れ'08 秋（第 30 回医学教育セミナーとワークショップの記録）129-40. 岐阜大学医学教育開発研究センター編集，三恵社，2008